

かいふねん
開府500年を
まな
学ぶ
No.2

たけだじだいじょうかまち 武田時代の城下町

古府の図



はちまんじんじやこち
八幡神社古地



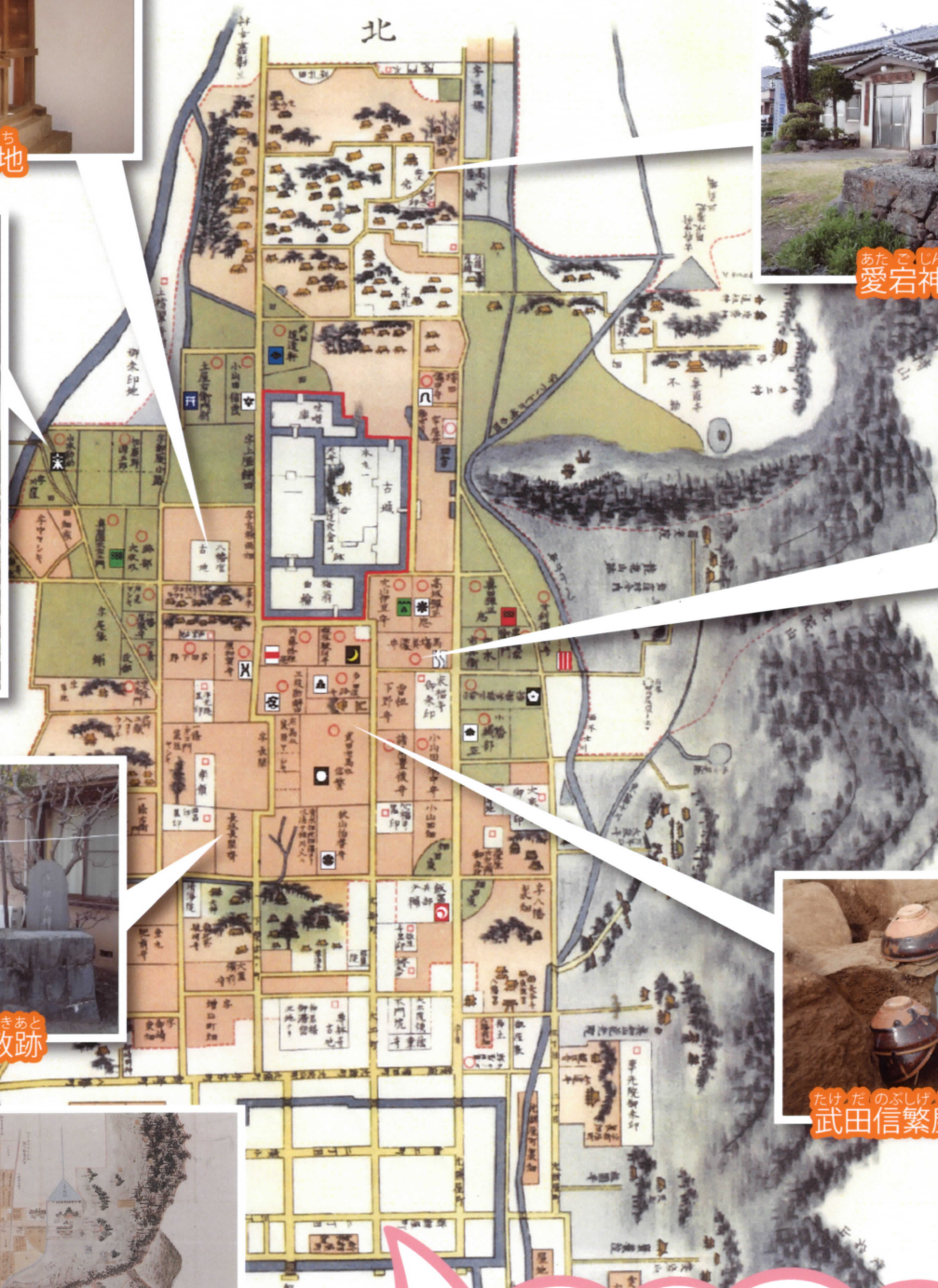
やまもとかんすけ やしきあと
山本勘助屋敷跡



ながさかろうかん やしきあと
長坂長閑屋敷跡



こふちゆうじょうかえす たけだじんじやぞう
「古府中城下絵図」(武田神社蔵)



あたごじんじやこち
愛宕神社古地



ばのぶはる やしきあと
馬場信春屋敷跡



たけだのぶしげ やしきあとしやつとひん
武田信繁屋敷跡出土品

とうじ じょうかまち やた ちゆうしん どうしょ けいかくてき せいび
当時の城下町は、館を中心として当初から計画的に整備をさ
られていた様子がうかがえます。
なんぼく ほん きかんどうろ せつてい やた しょうへん ぶげ やしき みながわ
南北5本の基幹道路を設定し、館の周辺に武家屋敷、その南側
いったい じいん しょうこうにんまち いちば くいき ちゆう
一帯に寺院、商工人町、市場の区域をそれぞれ設けています。